

**【表紙】**

**【提出書類】** 四半期報告書

**【根拠条文】** 金融商品取引法第24条の4の7第1項

**【提出先】** 関東財務局長

**【提出日】** 平成26年2月6日

**【四半期会計期間】** 第81期第3四半期(自平成25年10月1日至平成25年12月31日)

**【会社名】** 塩水港精糖株式会社

**【英訳名】** Ensuiiko Sugar Refining Co., Ltd.

**【代表者の役職氏名】** 取締役社長 浅倉 三男

**【本店の所在の場所】** 東京都中央区日本橋堀留町二丁目9番6号

**【電話番号】** 東京(03)3249局2381(代表)

**【事務連絡者氏名】** 専務取締役管理グループ長 安戸 久仁彦

**【最寄りの連絡場所】** 東京都中央区日本橋堀留町二丁目9番6号

**【電話番号】** 東京(03)3249局2381(代表)

**【事務連絡者氏名】** 専務取締役管理グループ長 安戸 久仁彦

**【縦覧に供する場所】** 株式会社東京証券取引所  
(東京都中央区日本橋兜町2番1号)

## 第一部 【企業情報】

### 第1 【企業の概況】

#### 1 【主要な経営指標等の推移】

回次		第80期 第3四半期 連結累計期間	第81期 第3四半期 連結累計期間	第80期
会計期間		自 平成24年4月1日 至 平成24年12月31日	自 平成25年4月1日 至 平成25年12月31日	自 平成24年4月1日 至 平成25年3月31日
売上高	(百万円)	22,148	20,986	28,258
経常利益	(百万円)	575	550	419
四半期(当期)純利益	(百万円)	283	293	73
四半期包括利益又は包括利益	(百万円)	465	606	660
純資産額	(百万円)	6,119	6,784	6,313
総資産額	(百万円)	25,550	25,676	26,194
1株当たり四半期(当期)純利益金額	(円)	10.54	10.91	2.73
潜在株式調整後1株当たり 四半期(当期)純利益金額	(円)	-	-	-
自己資本比率	(%)	24.0	26.4	24.1

回次		第80期 第3四半期 連結会計期間	第81期 第3四半期 連結会計期間
会計期間		自 平成24年10月1日 至 平成24年12月31日	自 平成25年10月1日 至 平成25年12月31日
1株当たり四半期純利益金額	(円)	6.01	5.29

- (注) 1 当社は四半期連結財務諸表を作成しておりますので、提出会社の主要な経営指標等の推移については記載しておりません。
- 2 売上高には、消費税等は含まれておりません。
- 3 潜在株式調整後1株当たり四半期(当期)純利益については、潜在株式が存在しないため記載しておりません。

## 2 【事業の内容】

当第3四半期連結累計期間において、当社グループ（当社及び当社の関係会社）において営まれている事業の内容に重要な変更はありません。

また、主要な関係会社についても異動はありません。

## 第2 【事業の状況】

### 1 【事業等のリスク】

当第3四半期連結累計期間において、新たに発生した事業等のリスクはありません。

また、前事業年度の有価証券報告書に記載した事業等のリスクについて、重要な変更はありません。

### 2 【経営上の重要な契約等】

当第3四半期連結会計期間において、経営上の重要な契約等は行われておりません。

### 3 【財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析】

文中の将来に関する事項は、当四半期連結会計期間の末日において当社グループ（当社及び連結子会社）が判断したものであります。

#### (1) 業績の状況

当第3四半期連結累計期間（平成25年4月1日～平成25年12月31日）におけるわが国経済は政府の経済政策や日銀の金融緩和による円安進行などに伴い、輸出関連企業を中心に企業業績は改善し、個人消費は持ち直すなど、景気は緩やかに回復しつつあります。

砂糖業界におきましては、加糖調製品などの影響により砂糖消費量の漸減傾向が続き、消費動向は依然厳しい状況が続いています。

このような状況の中、当社グループは、改めて平成25年度を初年度とする中期3ヵ年経営計画で策定した、基幹事業の砂糖部門並びに糖類部門（異性化糖、水あめ、でん粉など）及びバイオ部門（オリゴ糖、サイクロデキストリンなど）それぞれの売上高・利益計画の達成に向けて全力で取り組んで参りました。

その結果、当第3四半期連結累計期間の売上高は20,986百万円（前年同四半期比5.2%減）、営業利益は658百万円（前年同四半期比4.0%減）、経常利益は550百万円（前年同四半期比4.5%減）、四半期純利益は293百万円（前年同四半期比3.6%増）となりました。

セグメントごとの業績は次のとおりであります。

#### 砂糖事業

期中の海外原糖市況は、期初17.70セント〔ニューヨーク市場粗糖先物相場（期近限月の引け値、1ポンド当たり。）以下同じ。〕で始まり、主要生産国ブラジルの好調な生産を背景に軟調な動きとなっていました。ブラジル国内の港湾施設で発生した火災を引き金として、10月中旬には20.16セントの高値まで上昇しました。その後は、火災の影響が限定的であることが確認されると反落に転じ、これに投機筋の積極的な売りも加わり、12月中旬には15.86セントの安値をつけ、結局16.41セントで当期を終了しました。

期中の国内市中価格〔東京市場現物相場（日本経済新聞掲載、上白糖大袋1kg当たり。）〕は、期初182～183円で始まりましたが、海外原糖相場の上昇や円安による燃料代の増加を受け、11月末日に3円上昇して185～186円となり、同一水準のまま当期を終了しました。

##### ・国内精糖

販売数量につきましては、夏場以降低調な荷動きとなっておりましたが、11月に出荷価格を3円引き上げたことにより駆け込み需要が発生し、前年同期並みの結果となりました。売上高は、前年同期と比べて販売単価が低かったことにより前年同期を下回りました。

##### ・その他糖類

異性化糖などの国内販売については、堅調な荷動きとなりましたが、為替リスク等の軽減を図るため、海外事業を縮小した結果、売上高は減少いたしました。

この結果、売上高は19,344百万円（前年同四半期比5.2%減）、セグメント利益は1,281百万円（前年同四半期比2.6%減）となりました。

## バイオ事業

### ・オリゴ糖

家庭用「オリゴのおかげ」は、引き続き商品価値の啓蒙と、正しい使い方などの理解普及に努めるとともに、特に子育て世代に向けたサンプリング等を実施した結果、一定の成果を上げました。

業務用は、新規採用に向けた営業活動に努めました。

### ・サイクロデキストリン（CDと略称。）

飲料、健康食品などの食品分野のほか、非食品分野への拡販に努め、CD二次品（CDで加工した製品）の売上高は前年同期を上回るペースで推移しましたが、練り製品向けと非食品分野の既存ユーザー向けの販売数量が前年同期を下回りました。

以上から、当期におけるバイオ事業全体の売上高は、主にCDの販売数量が減少したため、前年同期を下回りました。

この結果、売上高は1,052百万円（前年同四半期比10.4%減）、セグメント利益は109百万円（前年同四半期比19.4%減）となりました。

## 不動産賃貸事業

関西製糖株式会社への大阪工場設備の賃貸、ニューESRビル事務所の一部賃貸等を行い、所有不動産の活用に努めました。

この結果、売上高は644百万円（前年同四半期比3.8%増）、セグメント利益は43百万円（前年同四半期比16.3%減）となりました。

研究開発につきましては、前期に引き続き肝機能改善などの機能を有するグルクロン酸の新規工業的生産技術のノウハウにつき、第三者への貸与等に努める一方、バイオプラスチック原料となり得るグルカル酸の利用に関する応用研究に取り組みました。また、抗がん剤「糖修飾パクリタキセル」をリポソームに包み込み、副作用を大幅に軽減し得る「がんミサイル療法」に関しましては、実用化に向けて共同研究開発を進めました。

また、米粉を原料とした乳化機能を有する食品素材の開発につきましては、大量生産技術による製法の実用性評価を行い、商品化に向けて鋭意取り組みました。

バイオ製品（オリゴ糖、CDなど）の研究開発につきましては、製造コストの低減と品質向上のための製法改善に取り組むとともに、新たな機能の開発と探索に努めました。

## (2) 事業上及び財務上の対処すべき課題

当第3四半期連結累計期間において、新たに発生した事業上及び財務上の対応すべき課題はありません。

## (3) 研究開発活動

当第3四半期連結累計期間におけるグループ全体の研究開発活動の総額は、100百万円であります。

なお、当第3四半期連結累計期間において、当社グループの研究開発活動の状況に重要な変更はありません。

### 第3 【提出会社の状況】

#### 1 【株式等の状況】

##### (1) 【株式の総数等】

###### 【株式の総数】

種類	発行可能株式総数(株)
普通株式	80,000,000
計	80,000,000

###### 【発行済株式】

種類	第3四半期会計期間末 現在発行数(株) (平成25年12月31日)	提出日現在 発行数(株) (平成26年2月6日)	上場金融商品取引所 名又は登録認可金融 商品取引業協会名	内容
普通株式	35,000,000	35,000,000	東京証券取引所 (市場第一部)	完全議決権株式であり、権利内容に何ら限定のない当社における標準となる株式 単元株式数は100株
計	35,000,000	35,000,000		

(注) 平成26年1月24日をもって、当社株式は東京証券取引所市場第二部より同市場第一部銘柄に指定されております。

##### (2) 【新株予約権等の状況】

該当事項はありません。

##### (3) 【行使価額修正条項付新株予約権付社債券等の行使状況等】

該当事項はありません。

##### (4) 【ライツプランの内容】

該当事項はありません。

##### (5) 【発行済株式総数、資本金等の推移】

年月日	発行済株式 総数増減数 (千株)	発行済株式 総数残高 (千株)	資本金増減額 (百万円)	資本金残高 (百万円)	資本準備金 増減額 (百万円)	資本準備金 残高 (百万円)
平成25年10月1日～ 平成25年12月31日		35,000		1,750		345

##### (6) 【大株主の状況】

当四半期会計期間は第3四半期会計期間であるため、記載事項はありません。

(7) 【議決権の状況】

【発行済株式】

平成25年12月31日現在

区分	株式数(株)	議決権の数(個)	内容
無議決権株式			
議決権制限株式(自己株式等)			
議決権制限株式(その他)			
完全議決権株式(自己株式等)	(自己保有株式) 普通株式 7,890,500		権利内容になんら権限のない当社における標準となる株式
	(相互保有株式) 普通株式 500,000		同上
完全議決権株式(その他)	普通株式 26,604,400	266,044	同上
単元未満株式	普通株式 5,100		同上
発行済株式総数	35,000,000		
総株主の議決権		266,044	

- (注) 1 「単元未満株式」欄の普通株式には、当社所有の自己株式84株が含まれております。  
 2 当第3四半期会計期間末日現在の議決権の状況については、株主名簿の記載内容が確認できず、記載することができませんので、直前の基準日である平成25年9月30日の株主名簿により記載しております。

【自己株式等】

平成25年12月31日現在

所有者の氏名 又は名称	所有者の住所	自己名義 所有株式数 (株)	他人名義 所有株式数 (株)	所有株式数 の合計 (株)	発行済株式 総数に対する 所有株式数 の割合(%)
(自己保有株式) 塩水港精糖株式会社	東京都中央区日本橋 堀留町2丁目9-6	7,890,500	-	7,890,500	22.54
(相互保有株式) 南西糖業株式会社	東京都千代田区岩本町 3丁目2-9	500,000	-	500,000	1.43
計		8,390,500	-	8,390,500	23.97

2 【役員の状況】

該当事項はありません。

## 第4 【経理の状況】

### 1．四半期連結財務諸表の作成方法について

当社の四半期連結財務諸表は、「四半期連結財務諸表の用語、様式及び作成方法に関する規則」（平成19年内閣府令第64号）に基づいて作成しております。

### 2．監査証明について

当社は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、第3四半期連結会計期間（平成25年10月1日から平成25年12月31日まで）及び第3四半期連結累計期間（平成25年4月1日から平成25年12月31日まで）に係る四半期連結財務諸表について、新日本有限責任監査法人により四半期レビューを受けております。



1 【四半期連結財務諸表】  
(1) 【四半期連結貸借対照表】

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (平成25年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (平成25年12月31日)
<b>資産の部</b>		
流動資産		
現金及び預金	1,414	999
受取手形及び売掛金	<sup>2</sup> 1,879	<sup>2</sup> 2,222
商品及び製品	971	987
仕掛品	256	142
原材料及び貯蔵品	1,249	1,054
繰延税金資産	65	80
その他	1,127	1,150
流動資産合計	6,964	6,638
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物	9,582	9,637
減価償却累計額	5,062	5,263
建物及び構築物（純額）	4,520	4,373
機械装置及び運搬具	11,166	11,247
減価償却累計額	9,405	9,574
機械装置及び運搬具（純額）	1,761	1,673
工具、器具及び備品	398	415
減価償却累計額	349	364
工具、器具及び備品（純額）	49	51
土地	5,234	5,234
建設仮勘定	14	46
有形固定資産合計	11,580	11,379
無形固定資産		
ソフトウェア	62	69
ソフトウェア仮勘定	32	1
その他	7	6
無形固定資産合計	102	77
投資その他の資産		
投資有価証券	5,147	5,346
長期貸付金	1,335	1,382
繰延税金資産	982	768
その他	109	96
貸倒引当金	27	13
投資その他の資産合計	7,546	7,580
固定資産合計	19,230	19,037
資産合計	26,194	25,676

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (平成25年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (平成25年12月31日)
<b>負債の部</b>		
流動負債		
支払手形及び買掛金	1,382	639
短期借入金	9,181	11,579
未払法人税等	54	80
未払消費税等	56	160
賞与引当金	79	40
その他	1,027	1,075
流動負債合計	11,780	13,575
固定負債		
長期借入金	6,411	3,764
退職給付引当金	1,144	1,056
その他	544	494
固定負債合計	8,099	5,315
負債合計	19,880	18,891
純資産の部		
株主資本		
資本金	1,750	1,750
資本剰余金	266	266
利益剰余金	7,798	7,955
自己株式	3,117	3,117
株主資本合計	6,697	6,855
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	367	58
繰延ヘッジ損益	16	12
その他の包括利益累計額合計	384	71
純資産合計	6,313	6,784
負債純資産合計	26,194	25,676

(2) 【四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書】

【四半期連結損益計算書】

【第3四半期連結累計期間】

(単位：百万円)

	前第3四半期連結累計期間 (自平成24年4月1日 至平成24年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自平成25年4月1日 至平成25年12月31日)
売上高	22,148	20,986
売上原価	18,713	17,554
売上総利益	3,434	3,431
販売費及び一般管理費	2,748	2,773
営業利益	686	658
営業外収益		
受取利息	33	31
受取配当金	97	97
デリバティブ利益	20	-
雑収入	31	13
営業外収益合計	184	141
営業外費用		
支払利息	118	100
持分法による投資損失	149	141
支払手数料	24	4
雑損失	2	3
営業外費用合計	294	249
経常利益	575	550
特別利益		
投資有価証券売却益	15	10
特別利益合計	15	10
特別損失		
投資有価証券売却損	7	15
投資有価証券評価損	16	-
その他	4	-
特別損失合計	28	15
税金等調整前四半期純利益	562	545
法人税、住民税及び事業税	242	216
法人税等調整額	36	36
法人税等合計	279	252
少数株主損益調整前四半期純利益	283	293
四半期純利益	283	293

【四半期連結包括利益計算書】  
 【第3四半期連結累計期間】

(単位：百万円)

	前第3四半期連結累計期間 (自平成24年4月1日 至平成24年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自平成25年4月1日 至平成25年12月31日)
少数株主損益調整前四半期純利益	283	293
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	202	290
繰延ヘッジ損益	10	3
持分法適用会社に対する持分相当額	9	19
その他の包括利益合計	182	313
四半期包括利益	465	606
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	465	606
少数株主に係る四半期包括利益	-	-

【注記事項】

(継続企業の前提に関する事項)

該当事項はありません。

(四半期連結貸借対照表関係)

1 偶発債務

連結会社以外の会社の金融機関等からの借入に対して、債務保証を行っております。

	前連結会計年度 (平成25年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (平成25年12月31日)
太平洋製糖(株)	530百万円	太平洋製糖(株) 414百万円

2 四半期連結会計期間末日満期手形の会計処理については、手形交換日をもって決済処理しております。

なお、当第3四半期連結会計期間末日が金融機関の休日であったため、次の四半期連結会計期間末日満期手形が、四半期連結会計期間末残高に含まれております。

	前連結会計年度 (平成25年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (平成25年12月31日)
受取手形	5百万円	12百万円

(四半期連結キャッシュ・フロー計算書関係)

当第3四半期連結累計期間に係る四半期連結キャッシュ・フロー計算書は作成しておりません。なお、第3四半期連結累計期間に係る減価償却費（無形固定資産に係る償却費を含む。）は、次のとおりであります。

	前第3四半期連結累計期間 (自平成24年4月1日 至平成24年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自平成25年4月1日 至平成25年12月31日)
減価償却費	542百万円	538百万円

(株主資本等関係)

前第3四半期連結累計期間（自平成24年4月1日 至 平成24年12月31日）

配当金支払額

決議	株式の種類	配当金の総額 (百万円)	1株当たり 配当額(円)	基準日	効力発生日	配当の原資
平成24年6月28日 定時株主総会	普通株式	135	5.00	平成24年3月31日	平成24年6月29日	利益剰余金

当第3四半期連結累計期間（自平成25年4月1日 至 平成25年12月31日）

配当金支払額

決議	株式の種類	配当金の総額 (百万円)	1株当たり 配当額(円)	基準日	効力発生日	配当の原資
平成25年6月27日 定時株主総会	普通株式	135	5.00	平成25年3月31日	平成25年6月28日	利益剰余金

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

前第3四半期連結累計期間(自平成24年4月1日至平成24年12月31日)

報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:百万円)

	報告セグメント				調整額 (注1)	四半期連結 損益計算書 計上額 (注2)
	砂糖事業	バイオ事業	不動産賃貸 事業	計		
売上高						
外部顧客への売上高	20,392	1,158	596	22,148	-	22,148
セグメント間の内部売上高 又は振替高	14	16	24	56	56	-
計	20,407	1,175	621	22,204	56	22,148
セグメント利益	1,316	135	52	1,503	817	686

(注) 1. セグメント利益の調整額 817百万円には、セグメント間取引消去 9百万円、各報告セグメントに配分していない全社費用 808百万円が含まれております。全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費及び研究開発費であります。

2. セグメント利益は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

当第3四半期連結累計期間(自平成25年4月1日至平成25年12月31日)

報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:百万円)

	報告セグメント				調整額 (注1)	四半期連結 損益計算書 計上額 (注2)
	砂糖事業	バイオ事業	不動産賃貸 事業	計		
売上高						
外部顧客への売上高	19,329	1,037	619	20,986	-	20,986
セグメント間の内部売上高 又は振替高	15	15	24	55	55	-
計	19,344	1,052	644	21,042	55	20,986
セグメント利益	1,281	109	43	1,434	776	658

(注) 1. セグメント利益の調整額 776百万円には、セグメント間取引消去 11百万円、各報告セグメントに配分していない全社費用 765百万円が含まれております。全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費及び研究開発費であります。

2. セグメント利益は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

(1株当たり情報)

1株当たり四半期純利益金額及び算定上の基礎は、以下のとおりであります。

項目	前第3四半期連結累計期間 (自平成24年4月1日 至平成24年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自平成25年4月1日 至平成25年12月31日)
1株当たり四半期純利益金額	10円54銭	10円91銭
(算定上の基礎)		
四半期純利益金額	283	293
普通株主に帰属しない金額(百万円)	-	-
普通株式に係る四半期純利益金額(百万円)	283	293
普通株式の期中平均株式数(千株)	26,860	26,859

(注) 潜在株式調整後1株当たり四半期純利益金額については、潜在株式が存在しないため記載しておりません。

(重要な後発事象)

該当事項はありません。

2【その他】

該当事項はありません。

## 第二部 【提出会社の保証会社等の情報】

該当事項はありません。



## 独立監査人の四半期レビュー報告書

平成26年2月6日

塩水港精糖株式会社

取締役会 御中

### 新日本有限責任監査法人

指定有限責任社員 業務執行社員	公認会計士	出	口	賢	二	印
指定有限責任社員 業務執行社員	公認会計士	齊	藤	直	人	印
指定有限責任社員 業務執行社員	公認会計士	山	口	俊	夫	印

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、「経理の状況」に掲げられている塩水港精糖株式会社の平成25年4月1日から平成26年3月31日までの連結会計年度の第3四半期連結会計期間(平成25年10月1日から平成25年12月31日まで)及び第3四半期連結累計期間(平成25年4月1日から平成25年12月31日まで)に係る四半期連結財務諸表、すなわち、四半期連結貸借対照表、四半期連結損益計算書、四半期連結包括利益計算書及び注記について四半期レビューを行った。

#### 四半期連結財務諸表に対する経営者の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して四半期連結財務諸表を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない四半期連結財務諸表を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

#### 監査人の責任

当監査法人の責任は、当監査法人が実施した四半期レビューに基づいて、独立の立場から四半期連結財務諸表に対する結論を表明することにある。当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期レビューの基準に準拠して四半期レビューを行った。

四半期レビューにおいては、主として経営者、財務及び会計に関する事項に責任を有する者等に対して実施される質問、分析的手続その他の四半期レビュー手続が実施される。四半期レビュー手続は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して実施される年度の財務諸表の監査に比べて限定された手続である。

当監査法人は、結論の表明の基礎となる証拠を入手したと判断している。

#### 監査人の結論

当監査法人が実施した四半期レビューにおいて、上記の四半期連結財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して、塩水港精糖株式会社及び連結子会社の平成25年12月31日現在の財政状態及び同日をもって終了する第3四半期連結累計期間の経営成績を適正に表示していないと信じさせる事項がすべての重要な点において認められなかった。

#### 利害関係

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。  
以上

(注) 1. 上記は、四半期レビュー報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当社(四半期報告書提出会社)が別途保管しております。

2. 四半期連結財務諸表の範囲にはXBRLデータ自体は含まれていません。